

# 国際水準GAP認証取得に向けた 推進について

平成29年5月  
**農林水産省**  
生産局 農業環境対策課

# 持続可能性に配慮した農産物の調達基準(概要)

## 《農産物》

### <要件>

- ① **食材の安全を確保**するため、農産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
- ② **周辺環境や生態系と調和のとれた農業生産活動を確保**するため、農産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
- ③ **作業者の労働安全を確保**するため、農産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。

(要件①～③を満たすことを示す方法)

ア JGAP Advance、  
GLOBAL G.A.P.、  
組織委員会が認める認証  
スキーム

イ **「農業生産工程管理(GAP)の  
共通基盤に関するガイドライン」**  
に準拠したGAPに基づき生  
産され、都道府県等公的機関  
による第三者の確認



### <要件を満たした上で推奨される事項>

・有機農業により生産された農産物

・障がい者が主体的に携わっ  
て生産された農産物

・世界農業遺産や日本農業遺産など国際機  
関や各国政府により認定された伝統的な農  
業を営む地域で生産された農産物

(海外産で、上記要件の①～③の確認が困難な場合)

組織委員会が認める持続可能性に資する取組に基づき生産され、トレーサビリティが確保されているものを優先

### <国産を優先的に選択>

(国内農業の振興とそれを通じた農村の多面的な  
機能の発揮等への貢献を考慮)

(生鮮食品)

加工

(加工食品)

主要な原材料である農産物が本  
基準を満たすものを、可能な限り  
優先的に調達

**サプライヤー(ケータリング事業者等)**

# 自由民主党農林水産業骨太方針実行PT 規格・認証等戦略に関する提言

## GAP戦略の目標（農産物）

	第1期 2017～2020年 (東京オリンピック・パラリンピック競技大会まで)	第2期 2021～2030年
GAP をする	<p>[目標]〈生産現場が変わる〉</p> <p>[KPI]・平成30年度中に、各県内のGAP指導体制における指導員数が全国で1,000人以上育成確保</p> <p>・都道府県等のGAPは、オリパラ調達基準を満たす農林水産省ガイドライン準拠に統一</p>	<p>[目標]〈国際標準に達する取組が浸透〉</p> <p>・ほぼ全ての国内の産地で国際水準のGAPを実施</p> <p>・農林水産省ガイドラインを国際水準レベルに改訂し推進 都道府県等のGAPは発展的解消</p>
	<p>[目標]東京オリンピック・パラリンピック競技大会に必要な食材量を余裕を持って十分に供給できるGAP認証取得農産物等の出荷量確保</p> <p>[KPI]・平成31年度末までに現状の3倍以上の認証取得</p> <p>・日本発GAP認証の仕組みが国際承認を得る(GLOBALG.A.P.と同等の扱い)</p>	<p>[目標]〈フードチェーンが変わる〉</p> <p>・日本発GAP認証がアジアで主流の認証の仕組み(デファクトスタンダード)となる</p>
GAP 認証をとる		

第1期の施策	
GAP をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産現場への周知徹底 GAPは「農業者」の経営改善上、必要不可欠な取組との共通認識。 都道府県等のGAPは、オリパラ調達基準を満たす農林水産省ガイドライン準拠に統一。 →将来的に、国際水準のGAPに向けて発展的解消。</li> <li>・農林水産省関連事業等において優先採択等を検討。</li> <li>・各県内で高い水準で指導できる人材の育成確保を図り、GAP指導体制を構築。</li> <li>・全国農作業安全確認運動、農薬危害防止運動等の関連運動と連携強化。</li> <li>・農業教育機関におけるGAP教育を促進。実習を含むGAP教育の拡充へ向け次期高等学校学習指導要領の改訂を検討。</li> <li>・オリパラ調達で推奨される有機農業、農福連携、農業遺産も一体的に推進。</li> </ul>
GAP 認証をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・価値を共有する流通業者等を結集し、オールジャパンでの協力体制を構築。</li> <li>・地方における審査員の育成確保の促進、団体認証の推進により、審査コスト削減と認証体制強化を図る。</li> <li>・優良事列表彰によるメリット周知とともに認証取得支援を検討。 (なお、認証取得は販売戦略、取引先要請等に基づき農業経営者が判断することが基本。)</li> <li>・日本発GAP認証の仕組みの国際承認による国際規格化を官民連携して推進。平成30年3月の東京でのGFSI世界会議を成功させ、30年末～31年はじめの承認を目指す。</li> <li>・日本発GAP認証のアジアでの認知向上を図る。</li> </ul>

# ふくしま。GAPチャレンジ宣言

## 「ふくしま。GAPチャレンジ宣言」について

平成29年5月15日  
福島県

### 1 趣旨

東日本大震災と原子力発電所事故以降、本県農林水産物の安全・安心を確保するため、きめ細かい検査と検査結果の迅速・正確な提供を行ってきました。

本県農林水産物に対する風評を払拭し、更なるブランド力向上と消費者から信頼される産地づくりを進めるため、GAP日本一を目指し、その認証取得に県を挙げてチャレンジすることを宣言します。そして、安全で質が高くおいしい本県農林水産物を東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ供給し、国内外の人々へ生産者の誇りや感謝の気持ちを力強く伝えていきます。

### 2 「ふくしま。GAPチャレンジ宣言」の内容

我々は、生産者の皆様と共に、より良い農業の証であるGAP日本一を目指して、その認証取得にチャレンジします。  
そして、東京2020オリンピック・パラリンピックへ食材を供給し、国内外へ向け、誇りと感謝を伝えます。

### 3 推進するGAP 調達基準を満たすGAP

GLOBAL G.A.P.	欧州の大手小売りが主導し策定した、国際的に広く通用する第三者認証GAP
JGAP	日本の農業者、JA、小売が参加し開発した第三者認証GAP、国際水準化を目指す
県 GAP	農水省ガイドラインに準拠したGAPにより県が認証する公的認証GAP 本県では本年度より県認証開始

# 小売・流通事業者の取組①

## 「イオン持続可能な調達方針」 「持続可能な調達2020年目標」を策定

対象	イオン持続可能な調達方針	持続可能な2020年目標
農産物	自然・生態系・社会と調和のとれた持続可能な農産物の調達努めます。 自らも野菜を栽培することで安全でおいしい野菜を提供し、安心してらせる食の未来の創造に貢献します。	・プライベートブランドは、GFSI※ベースの適正農業規範(GAP)管理の100%実施をめざす ・オーガニック農産物売上げ構成比5%をめざす



自然と体にやさしい、心豊かな暮らしを  
*live green, live healthy and live happy*

※GFSI (Global Food Safety Initiative) : 世界食品安全イニシアチブ  
グローバルに展開する小売業、食品メーカーで構成するTGCF (The Consumer Goods Forum) 参加の食品安全の推進団体。食品安全の認証も実施

(イオンHP)

## 小売・流通事業者の取組②

2016年7月21日

取引先各位、

### 農業生産工程管理(GAP)導入について

拝啓

貴社ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

コストコホールセールは、会員の皆様により安全で高品質な農産物をお届けするため、青果物の取引先各位に、農業生産工程管理(GAP: Good Agricultural Practice)に基づく管理をしていただきたいと考えます。今後当社は会員の皆様に提供する青果物の生産から出荷までの工程が、生産地域における自然環境への影響に配慮し、食の安全や持続的な農業経営を考慮したものとなるよう取り組んで参ります。

この取り組みは既にコストコ各国で実施しているもので、この度日本でも実施させて頂くことに致しました。

この目的達成のため、当社はお取引先、生産者の皆様と協力しながら、GAPの普及を推進し、2021年以降販売するすべての青果物が、JGAP又はGFSI認証(GLOBAL G.A.P.等)を取得した農場、生産者から供給されることを目指します。また、これらの認証に加え、当社独自の追加監査項目(Costco Addendum)の導入も検討して参ります。

2021年までに、すべての取引先各位がGAP認証を取得されますよう、8月下旬に当社の方針についての合同説明会を開催させていただき予定です。ご多用の折とは存じますが、万障お繰り合わせの上ご参加賜りますようお願い申し上げます。

敬具

コストコホールセールジャパン株式会社  
商品購買部 部長  
馬瀬口大助

# 国際水準GAPの農業高校での取得事例

## 五所川原農林高校 (高校生も取得！未来の当たり前)

2016年GAP大賞受賞。  
青森のりんごを世界へ！

青森県五所川原市の県立五所川原農林高校では、平成28年りんごと米を対象に、我が国の高校で初となるグローバルGAP認証を取得。

GLOBALG.A.P.が隔年で開催するグローバルGAPサミット(世界大会)で、他の三団体と共にGAP Awards 2016(2016GAP大賞)を受賞。  
GLOBALG.A.P.サミット2016にパネリストとして参加。



(写真: GLOBALG.A.P.協議会HP)



## 国際水準GAP等取得拡大緊急支援事業（新規）

- 輸出やインバウンド消費の拡大、国内の消費動向の変化に適切に対応するため、オリパラ東京大会の食料調達への対応も視野に入れつつ、農産物の国際水準GAP及び有機JASの認証取得の拡大に必要な環境整備と認証取得に対する支援を強化します。

### 1 我が国発の輸出用GAPの国際規格化支援

#### 我が国発の輸出用GAPの国際規格化・導入推進

日本の農業者が取り組みやすい我が国発の輸出用GAP（JGAP Advance）について、国際規格化の交渉や、導入推進のための技術マニュアルの策定等の取組を支援します。

【補助率】 定額

【事業実施主体】 民間団体

### 2 国際水準認証の取得拡大のための環境整備支援

#### ① 国際水準GAPのマニュアル策定等

日本の農業者が国際水準GAPを取得しやすくするため、検討会の開催、国内外の実態調査、技術マニュアルの策定等の取組を支援します。

【補助率】 定額

【事業実施主体】 民間団体

#### ② 国際水準GAPの指導員育成等支援

農業生産現場における取組を促進するため、国際水準GAPの指導ができる指導員を育成するために行う研修会等に係る取組を支援します。

【補助率】 定額

【事業実施主体】 都道府県、協議会等

#### ③ 有機農産物の需要喚起

国産有機農産物の需要拡大キャンペーンの実施を通じて有機JAS認証取得の拡大につなげる取組を支援します。

【補助率】 定額

【事業実施主体】 民間団体等

### 3 国際水準認証の取得支援

#### 認証取得、技術習得研修、ICT技術導入、残留農薬等分析、認証対応施設改修・機器導入等

農地所有適格法人や産地を対象とし、認証取得、技術習得のための研修会の開催、販路拡大に向けた実需者との連携体制の構築、記帳作業軽減のためのICT技術導入、残留農薬等分析、集出荷・調製施設等をGAPや有機JAS対応にするための改修・機器導入等、認証取得のために必要な取組を総合的に支援します。

【補助率】 定額（機器等のリース導入については1/2以内）

【事業実施主体】 農業者、農地所有適格法人、農業協同組合、協議会等（一部については、交付先である民間団体を通じて支援）